

決算補足説明資料 2010年度 決算

2011年5月10日
田辺三菱製薬株式会社
証券コード: 4508



田辺三菱製薬

本資料に関するお問い合わせ
広報部 TEL 06-6205-5211
FAX 06-6205-5105

目次

1	2010年度 決算の概要			
	1. 2010年度 業績サマリー	2. 2011年度 業績予想サマリー	3. 配当金	2
2	2010年度 連結決算について			
	1. 損益状況			3
	損益実績	事業別売上高	売上原価 / 販売費及び一般管理費	3
	営業外損益	特別損益	法人税等	4
	主要製品売上高			5
	2. 財務状況			6
	資産・負債・純資産の状況			6
	キャッシュ・フロー計算書			7
	設備投資 / 情報システム開発投資	減価償却費		8
	3. 主要連結子会社の財務数値・従業員数			9
3	2011年度 業績予想について			
	損益予想	事業別売上高予想	売上原価 / 販売費及び一般管理費予想	10
	主要製品売上高予想			11
	設備投資 / 情報システム開発投資予想	減価償却費予想		12
4	四半期業績の推移			
	損益計算書			13
	主要製品売上高			14
5	新製品開発状況について(2011年5月10日現在)			
	1. 国内開発状況			15
	新規化合物	効能追加		15
	2. 海外開発状況			16
	新規化合物			16
	3. 導出品の開発状況			17
	4. 2010年度第3四半期決算発表時点(2011年1月28日)からの変更点			18
	自社開発品	導出品		18
	5. 新製品開発状況補足資料(2011年5月10日現在)			19
	国内 新規化合物			19
	国内 効能追加			20
	海外 新規化合物			21
	導出品			22
6	その他			
	1. 関係会社			23
	関係会社数	連結子会社一覧	持分法適用非連結子会社一覧	23
	持分法適用関連会社一覧			23
	2. 株式の状況			24
	発行済株式数	大株主の状況	所有者別株式数分布状況	24
	配当金 / 株価推移			24
	3. 従業員数			24
参考	主要医療用医薬品の解説 / ニュースリリース			25

1 2010年度 決算の概要

(億円未満切捨て)

1. 2010年度 業績サマリー

売上高	4,095 億円	対前期比	47 億円	1.2 %
医薬品事業	4,002 億円	対前期比	44 億円	1.1 %
その他	93 億円	対前期比	2 億円	3.3 %

医薬品事業では、売上高は4,002億円となり、前期比 + 1.1%、44億円の増収となりました。

国内医療用医薬品は、抗ヒTNF モノクローナル抗体製剤「レミケード」が大きく伸長したほか、選択的 1 遮断剤「メイソテート」、アレルギー性疾患治療剤「タリオン」などが順調に推移しました。また、昨年4月に接種勧奨が再開された乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン「ジェービックV」やジェネリック医薬品も増収となりました。加えて、東日本大震災発生後、社会全般で医薬品の供給に関する懸念が高まったことにより、当社においても大部分の製品に対して一時的に受注が増加しました。その結果、昨年4月に実施された薬価改定の影響を吸収し、70億円増収の3,616億円となりました。

海外医療用医薬品は、15億円減収の213億円となりました。一般用医薬品は、4億円の増収となっております。

医薬品その他は、ライセンス契約に係る一時金収入や製造受託品が減少し、14億円の減収となりました。

各事業の主たる製品及び役務の内容

医薬品事業：医療用医薬品、一般用医薬品

その他：化成品、不動産賃貸業、情報サービス、宣伝製作物等

営業利益	765 億円	対前期比	151 億円	24.6 %
------	--------	------	--------	--------

売上高は前期比47億円増収となりましたが、薬価改定の影響などにより、売上総利益は19億円減益の2,549億円となりました。売上原価率は37.7%、前期比1.2ポイント悪化しております。

研究開発費は、前期にライセンス契約変更に伴う一時金支払いが約100億円あったことや、海外で実施している開発プロジェクトにおける費用の発生がピークを過ぎたことなどにより、前期比172億円減少し、657億円となりました。なお、売上高に対する割合は16.1% (前期20.5%) となっております。

上記の通り、主に研究開発費が大幅に減少したため、販売費及び一般管理費は、前期比170億円減少し、1,783億円となりました。

経常利益	766 億円	対前期比	150 億円	24.4 %
------	--------	------	--------	--------

当期純利益	377 億円	対前期比	74 億円	24.8 %
-------	--------	------	-------	--------

営業利益の増益により、経常利益は前期比150億円増益の766億円、当期純利益は74億円増益の377億円となりました。

特別損益においては、固定資産売却益など特別利益が6億円発生しました。

投資有価証券評価損が80億円、東日本大震災に伴う災害損失21億円、減損損失8億円、遺伝子組換え人血清アルブミン製剤「メドウェイ注」の事業休止関連損失7億円など132億円の特別損失が発生しました。なお、前期にも本社移転に伴う減損損失や構造改革費用、「メドウェイ注」の事業休止関連損失など107億円の特別損失を計上しております。

2. 2011年度 業績予想サマリー

売上高	4,030 億円	対前期比	65 億円	1.6 %
営業利益	630 億円	対前期比	135 億円	17.7 %
経常利益	630 億円	対前期比	136 億円	17.8 %
当期純利益	355 億円	対前期比	22 億円	6.0 %

3. 配当金

	2011年度(予想)		2010年度	
	第2四半期末	年間	第2四半期末	年間
1株当たり配当金(円)	14	28	14	28
配当性向	34.5%		32.9%	

(注) 配当性向は、当期純利益からのれん償却額を除いた利益と年間配当金から算出しております。

2 2010年度 連結決算について

(億円未満切捨て)

1. 損益状況

損益実績

(単位:億円)

	2010年度	対前期比較			対予想比較		
		2009年度	増減額	増減率%	予想(注1)	増減額	増減率%
売上高	4,095	4,047	47	1.2	4,010	85	2.1
売上原価	1,545	1,478	67	4.6	1,540	5	0.4
売上原価率	37.7%	36.5%			38.4%		
売上総利益	2,549	2,569	19	0.8	2,470	79	3.2
販管費	1,783	1,954	170	8.7	1,800	16	0.9
販管費比率	43.6%	48.3%			44.9%		
営業利益	765	614	151	24.6	670	95	14.3
経常利益	766	616	150	24.4	670	96	14.5
特別利益	6	0	5	-	5	1	25.8
特別損失	132	107	24	-	75	57	76.2
当期純利益	377	302	74	24.8	355	22	6.3

事業別売上高

(単位:億円)

	2010年度	対前期比較			対予想比較			主なポイント(対前期比較)
		2009年度	増減額	増減率%	予想(注1)	増減額	増減率%	
医薬品事業	4,002	3,957	44	1.1	3,907	95	2.4	国内医療用医薬品 +70億円 製造受託品 8億円 技術導出契約金等 6億円 詳細は5ページ、主要製品売上高を参照
構成比	97.7%	97.8%			97.4%			
(国内)	(3,768)	(3,710)	(57)	(1.6)	(3,660)	(108)	(3.0)	
(海外)	(233)	(246)	(12)	(5.1)	(247)	(13)	(5.4)	
その他	93	90	2	3.3	103	9	9.6	
構成比	2.3%	2.2%			2.6%			
(国内)	(69)	(67)	(1)	(1.8)	(75)	(5)	(7.8)	
(海外)	(23)	(22)	(1)	(8.0)	(28)	(4)	(14.5)	
売上高合計	4,095	4,047	47	1.2	4,010	85	2.1	海外売上高比率 2009年度:6.6% 2010年度:6.3% 平均為替レート 2009年度:1US\$ = 93.72円 2010年度:1US\$ = 87.32円
構成比	100.0%	100.0%			100.0%			
(国内)	(3,837)	(3,778)	(58)	(1.6)	(3,735)	(102)	(2.7)	
(海外)	(257)	(268)	(10)	(4.1)	(275)	(17)	(6.3)	

売上原価 / 販売費及び一般管理費

(単位:億円)

	2010年度	対前期比較			対予想比較			主なポイント(対前期比較)
		2009年度	増減額	増減率%	予想(注1)	増減額	増減率%	
売上原価	1,545	1,478	67	4.6	1,540	5	0.4	薬価改定の影響により売上原価率が悪化
比率	37.7%	36.5%			38.4%			
販管費	1,783	1,954	170	8.7	1,800	16	0.9	
比率	43.6%	48.3%			44.9%			
研究開発費	657	830	172	20.8	700	42	6.0	前期)MP-424のライセンス契約変更に伴う対価の支払い 約100億円
比率	16.1%	20.5%			17.5%			
研究開発費以外	1,126	1,123	2	0.2	1,100	26	2.4	
人件費	525	530	5	1.0	510	15	3.0	退職給付費用の減少など
販売促進費	113	119	6	5.5	118	5	4.2	業務停止による影響など
のれん償却額(注2)	101	101	0	0.1	101	0	0.5	
その他	386	372	13	3.7	371	15	4.2	
総人件費	886	899	13	1.5	875	11	1.3	退職給付費用の減少など

(注1) 2010年10月29日 2010年度第2四半期決算発表時からの変更はありません。

(注2) 合併に係るのれん1,505億円を15年償却

営業外損益

(単位:億円)

	2010年度	2009年度	増減額	主なポイント
営業外収益	34	37	2	
受取利息	15	17	2	
受取配当金	7	7	0	
持分法による投資利益	2	4	2	
受取賃貸料	2	2	0	
その他	6	4	1	
営業外費用	33	35	1	
為替差損	14	14	0	
固定資産除却損	4	4	0	
寄付金	3	3	0	
その他	11	12	0	

特別損益

(単位:億円)

	2010年度	2009年度	増減額	主なポイント
特別利益	6	0	5	
固定資産売却益	3	-	3	
過年度特許実施料戻入額	1	-	1	
投資有価証券売却益	1	0	0	
特別損失	132	107	24	
投資有価証券評価損	80	2	77	
災害による損失	21	-	21	東日本大震災発生に伴う費用
減損損失	8	18	10	前期)本社移転など
事業休止関連損失	7	32	25	メドウェイ事業休止に伴う費用
特別退職金	4	-	4	転籍に伴う加算退職金
固定資産売却損	3	-	3	
構造改革費用	1	15	14	前期)本社移転費用など
HCV訴訟損失引当金繰入額	-	30	30	前期)期末日時点の提訴原告数および和解状況を勘案し追加引当
その他	5	8	2	

法人税等

(単位:億円)

	2010年度	2009年度	増減額	主なポイント
税金等調整前当期純利益	641	509	131	2010年度 40.6%
法人税、住民税 及び事業税	269	248	21	2009年度 40.6%
法人税等調整額	4	27	23	法定実効税率 調整) 交際費等永久に損金に算入されない項目 2.7% 3.8% 受取配当金等永久に益金に算入されない項目 2.0% 2.3% 住民税均等割 0.2% 0.2% 試験研究費の特別控除 7.7% 10.7% のれん償却額 6.3% 8.0% 受取配当金の消去 1.7% 2.0% 評価性引当額の増減 0.1% 2.4% その他 0.6% 0.8% 税効果会計適用後の法人税等の負担率 41.3% 43.2%
少数株主損益	1	13	11	
当期純利益	377	302	74	

主要製品売上高

(単位: 億円)

	2010年度	対前期比較			対予想比較		
		2009年度	増減額	増減率%	予想(注1)	増減額	増減率%
医療用医薬品	3,947	3,907	40	1.0	3,854	93	2.4
国内医療用医薬品	3,616	3,546	70	2.0	3,507	109	3.1
レミケード	604	471	132	28.1	607	2	0.5
ラジカット	287	279	7	2.6	282	4	1.5
セレジスト	180	168	11	7.0	177	2	1.5
アンブラーグ	164	183	19	10.6	159	4	3.0
ウルソ	153	162	9	5.6	150	3	2.3
タリオン	134	106	27	26.2	125	8	6.8
メインテート	123	110	12	11.6	118	4	3.9
デバス	114	115	1	1.2	111	3	3.0
タナトリル	96	111	14	13.2	92	3	4.1
ヘルベッサー	96	107	11	10.6	95	1	1.4
ヴェノグロブリンH	96	96	0	0.2	87	8	9.4
リブル	73	80	7	8.8	72	0	0.6
サアミオン	63	72	8	11.8	63	0	0.3
ノイアート	55	57	1	2.4	54	1	2.0
オメブラゾン	48	55	6	11.7	47	1	2.5
ノバスタン	31	28	2	8.4	31	0	0.2
ワクチン(注2)	296	229	66	28.8	267	28	10.6
内、ミールピック	122	117	4	4.2	118	4	4.0
内、インフルエンザ(注2)	71	63	7	12.1	72	1	2.2
内、ジェービックV	69	20	49	244.3	47	22	47.2
田辺製薬販売取扱品(注3)	140	85	55	64.8	134	5	4.2
海外医療用医薬品	213	228	15	6.7	221	7	3.6
ヘルベッサー	46	46	0	0.3	44	1	4.3
アルガトロバン(ノバスタン)	34	36	1	4.4	30	3	12.9
タナトリル	18	18	0	1.3	17	0	3.2
アンブラーグ	6	11	5	45.6	9	3	35.7
ワクチン	13	13	0	2.5	13	0	0.5
製造受託品(注4)	93	101	8	8.0	97	3	3.4
技術導出契約金等	24	31	6	21.7	29	4	16.2
一般用医薬品	54	49	4	9.2	52	1	3.0
医薬品事業合計	4,002	3,957	44	1.1	3,907	95	2.4

(注1) 2010年10月29日 2010年度第2四半期決算発表時からの変更はありません。

(注2) ワクチンおよびインフルエンザワクチンには、インフルエンザ(H1N1)2009ワクチンを含んでおりません。

(注3) ジェネリック医薬品の他、田辺三菱製薬より移管した長期収載品を含んでおります。

(注4) 他社製品の製造受託品等

2. 財務状況

資産・負債・純資産の状況

(単位: 億円)

	2010年度末	構成比%	2009年度末	増減額	主なポイント
総資産	8,187	100.0	7,968	218	
流動資産	3,915	47.8	3,442	473	
現金及び預金	274	3.3	227	46	P7「キャッシュ・フロー計算書」参照
有価証券	847	10.4	597	250	譲渡性預金の増加など
売上債権(注1) (売上債権回転月数)	1,283 (3.76)	15.7	1,262 (3.74)	21 (0.02)	
たな卸資産	777	9.5	731	45	主にレミケードなど製商品の増加
預け金	563	6.9	462	100	三菱ケミカルホールディングスグループ金融会社 エムシー・エフエー向け預け金
繰延税金資産	125	1.5	113	11	
その他	44	0.5	46	2	
固定資産	4,271	52.2	4,526	254	
有形固定資産	1,135	13.9	1,172	37	設備投資 +101億円、減価償却 113億円
無形固定資産	1,192	14.6	1,296	103	情報システム開発投資 +8億円、 のれん償却 101億円、減価償却 10億円
投資有価証券	1,276	15.6	1,391	115	時価評価による減少など
前払年金費用	404	4.9	367	37	
その他	263	3.2	299	36	
負債	1,227	15.0	1,200	27	
流動負債	877	10.7	777	99	
仕入債務(注2)	296	3.6	275	20	レミケード、ワクチンなどの債務増加
短期借入金	28	0.4	24	4	
未払金	203	2.5	202	1	
未払法人税等	152	1.9	110	41	
その他	196	2.4	165	31	
固定負債	350	4.3	422	72	
繰延税金負債	114	1.4	112	1	
退職給付引当金	118	1.4	131	13	
HIV訴訟健康管理手当等引当金	15	0.2	16	1	
スモン訴訟健康管理手当等引当金	38	0.5	42	3	
HCV訴訟損失引当金	46	0.6	106	60	和解金の支払いに伴う取り崩し
その他	17	0.2	13	4	
純資産	6,959	85.0	6,768	191	
株主資本	7,022	85.8	6,803	218	
資本金	500	6.1	500	-	
資本剰余金	4,511	55.1	4,511	0	
利益剰余金	2,014	24.6	1,794	220	当期純利益 +377億円、配当金支払い 157億円
自己株式	4	0.0	2	1	
その他の包括利益累計額	120	1.5	98	21	
その他有価証券評価差額金	27	0.3	32	5	
繰延ヘッジ損益	10	0.1	3	6	
為替換算調整勘定	82	1.0	62	20	
少数株主持分	57	0.7	63	5	

(注1) 売上債権 = 受取手形 + 売掛金 (注2) 仕入債務 = 支払手形(除く営業外支払手形) + 買掛金

キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

	2010年度	2009年度	増減額
現金・現金同等物期首残高	629	1,169	539
営業キャッシュ・フロー	590	239	351
税金等調整前当期純利益	641	509	131
減価償却費	124	132	8
減損損失	8	18	10
のれん償却額	101	101	0
退職給付引当金の増減額(は減少)	12	11	1
前払年金費用の増減額(は増加)	37	12	24
HCV訴訟損失引当金の増減額(は減少)	60	93	32
災害損失引当金の増減額(は減少)	15	-	15
受取利息及び受取配当金	23	25	1
投資有価証券評価損益(は益)	80	2	77
売上債権の増減額(は増加)	25	31	5
たな卸資産の増減額(は増加)	47	49	1
仕入債務の増減額(は減少)	24	12	12
未払金の増減額(は減少)	21	4	25
利息及び配当金の受取額	25	27	1
法人税等の支払額	222	291	69
その他	20	55	75
投資キャッシュ・フロー	76	612	535
有価証券の取得・売却等	257	58	315
定期預金の預入・払戻	9	87	78
長期預金の預入・払戻	0	6	6
有形固定資産の取得・売却	70	81	11
無形固定資産の取得による支出	7	10	3
投資有価証券の取得・売却等	247	423	175
その他	0	55	54
財務キャッシュ・フロー	154	171	16
短期借入金の純増減額(は減少)	4	3	8
長期借入金の返済による支出	0	9	8
配当金の支払額	157	157	0
その他	1	0	0
現金・現金同等物に係る換算差額	11	2	14
現金・現金同等物の増減額(は減少)	348	541	889
非連結子会社との合併に伴う現金・現金同等物の増加額	0	1	1
現金・現金同等物期末残高	978	629	349

* 現金・現金同等物の期末残高と連結貸借対照表上の現金及び預金との関係(単位:億円)

	2010年度	2009年度
現金及び預金	274	227
預入期間が3ヵ月を超える定期預金	115	95
取得日から3ヵ月以内に償還期限が到来する有価証券	254	31
短期貸付金(注)に含まれる現金・現金同等物	1	3
預け金に含まれる現金・現金同等物	563	462
現金・現金同等物	978	629

(注)短期貸付金は、連結貸借対照表(6ページ)上は流動資産その他に含めております。

設備投資 / 情報システム開発投資 (単位:億円)

	2010年度	2009年度	増減額
設備投資額 / 発生ベース	101	83	17
システム投資額 / 発生ベース	8	8	0

2010年度の主な設備投資		2010年度の主なシステム開発投資	
田辺三菱製薬	46億円	田辺三菱製薬	5億円
・横浜事業所研究棟建設	(23億円)		
田辺三菱製薬工場	36億円		
・鹿島工場製剤製造設備	(17億円)		
ベネシス	11億円		
・京都工場製剤製造設備	(4億円)		

減価償却費 (単位:億円)

	2010年度	2009年度	増減額
有形固定資産	113	122	9
無形固定資産	10	10	0

3. 主要連結子会社の財務数値・従業員数

(単位: 億円)

	会社名	ベネシス	田辺三菱製薬工場	ミツピン タナベ ファーマ コリア	三菱製薬(広州)	天津田辺製薬
	決算期	3月末	3月末	12月末	12月末	12月末
売上高	2010年度	182	530	37	22	20
	2009年度	187	538	35	34	20
営業利益	2010年度	12	46	5	1	1
	2009年度	16	25	6	5	1
経常利益	2010年度	13	45	5	3	1
	2009年度	16	25	6	5	1
当期純利益	2010年度	8	23	4	3	1
	2009年度	10	14	4	4	1
研究開発費	2010年度	20	9	-	0	0
	2009年度	23	11	-	0	0
有形固定資産 減価償却費	2010年度	10	38	0	1	0
	2009年度	12	40	0	1	0
総資産	2010年度末	299	577	25	38	18
	2009年度末	290	579	25	49	18
純資産	2010年度末	250	386	15	32	14
	2009年度末	247	370	17	38	13
従業員数	2010年度末	575	1,219	125	419	333
	2009年度末	569	1,115	120	430	321

3 2011年度 業績予想について

(億円未満切捨て)

損益予想

(単位:億円)

	2011年度 上期予想	2010年度 上期実績	増減額	増減率%	2011年度 通期予想	2010年度 通期実績	増減額	増減率%	主なポイント
売上高	1,945	2,046	101	5.0	4,030	4,095	65	1.6	
売上原価	755	778	23	3.0	1,505	1,545	40	2.6	
売上原価率	38.8%	38.0%			37.3%	37.7%			
売上総利益	1,190	1,268	78	6.2	2,525	2,549	24	1.0	
販管費	965	866	98	11.3	1,895	1,783	111	6.2	
販管費比率	49.6%	42.4%			47.0%	43.6%			
営業利益	225	401	176	44.0	630	765	135	17.7	
経常利益	225	404	179	44.4	630	766	136	17.8	
特別利益	-	4	4	-	-	6	6	-	
特別損失	5	37	32	-	10	132	122	-	
当期純利益	115	227	112	49.3	355	377	22	6.0	

事業別売上高予想

(単位:億円)

	2011年度 上期予想	2010年度 上期実績	増減額	増減率%	2011年度 通期予想	2010年度 通期実績	増減額	増減率%	主なポイント
医薬品事業	1,893	1,998	104	5.2	3,929	4,002	72	1.8	
構成比	97.4%	97.6%			97.5%	97.7%			
(国内)	(1,781)	(1,874)	(93)	(5.0)	(3,687)	(3,768)	(81)	(2.2)	
(海外)	(112)	(123)	(11)	(9.3)	(242)	(233)	(8)	(3.6)	
その他	51	48	2	5.5	100	93	7	7.9	
構成比	2.6%	2.4%			2.5%	2.3%			
(国内)	(36)	(34)	(1)	(4.5)	(72)	(69)	(3)	(5.5)	
(海外)	(14)	(13)	(1)	(8.1)	(27)	(23)	(3)	(14.7)	
売上高合計	1,945	2,046	101	5.0	4,030	4,095	65	1.6	海外売上高比率 2010年度:6.3% 2011年度予想:6.7%
構成比	100.0%	100.0%			100.0%	100.0%			
(国内)	(1,818)	(1,909)	(91)	(4.8)	(3,760)	(3,837)	(77)	(2.0)	計画為替レート 1US\$ = 85円
(海外)	(126)	(137)	(10)	(7.5)	(269)	(257)	(11)	(4.7)	

売上原価 / 販売費及び一般管理費予想

(単位:億円)

	2011年度 上期予想	2010年度 上期実績	増減額	増減率%	2011年度 通期予想	2010年度 通期実績	増減額	増減率%	主なポイント
売上原価	755	778	23	3.0	1,505	1,545	40	2.6	
比率	38.8%	38.0%			37.3%	37.7%			
販管費	965	866	98	11.3	1,895	1,783	111	6.2	
比率	49.6%	42.4%			47.0%	43.6%			
研究開発費	360	324	35	10.8	690	657	32	4.9	
比率	18.5%	15.9%			17.1%	16.1%			
研究開発費以外	605	542	62	11.6	1,205	1,126	78	7.0	
人件費	256	258	2	0.9	513	525	12	2.3	
のれん償却額 (注)	51	50	0	0.6	101	101	0	0.5	
その他	298	233	64	27.8	591	499	91	18.3	新製品発売に伴う販売経費 増加など
総人件費	443	440	2	0.6	889	886	2	0.3	

(注) 1,505億円を15年償却

主要製品売上高予想

(単位:億円)

	2011年度 上期予想	2010年度 上期実績	増減額	増減率%	2011年度 通期予想	2010年度 通期実績	増減額	増減率%
医療用医薬品	1,866	1,969	103	5.2	3,877	3,947	70	1.8
国内医療用医薬品	1,711	1,791	80	4.5	3,550	3,616	66	1.8
レミケード	-	293	-	-	-	604	-	-
ラジカット	-	142	-	-	-	287	-	-
セレジスト	-	89	-	-	-	180	-	-
アンブラーグ	-	82	-	-	-	164	-	-
ウルソ	-	77	-	-	-	153	-	-
タリオン	-	47	-	-	-	134	-	-
メインテート	-	59	-	-	-	123	-	-
デパス	-	57	-	-	-	114	-	-
タナトリル	-	49	-	-	-	96	-	-
ヘルベッサー	-	48	-	-	-	96	-	-
ヴェノグロブリンH	-	45	-	-	-	96	-	-
リブル	-	37	-	-	-	73	-	-
サアミオン	-	33	-	-	-	63	-	-
ノアート	-	27	-	-	-	55	-	-
オメブラゾン	-	24	-	-	-	48	-	-
ノバスタン	-	16	-	-	-	31	-	-
ワクチン	-	150	-	-	-	296	-	-
内、ミールピック	-	75	-	-	-	122	-	-
内、インフルエンザ	-	19	-	-	-	71	-	-
内、ジェービックV	-	37	-	-	-	69	-	-
田辺製薬販売取扱品(注1)	-	54	-	-	-	140	-	-
海外医療用医薬品	90	112	22	19.7	189	213	23	11.2
ヘルベッサー	28	24	3	15.5	56	46	9	20.5
アルガトロバン(ノバスタン)	20	18	2	11.8	39	34	4	13.9
タナトリル	12	9	2	28.0	25	18	6	37.4
ワクチン	9	6	2	36.0	18	13	4	32.9
製造受託品(注2)	41	52	10	20.1	83	93	10	11.5
技術導入契約金等	22	13	9	73.4	54	24	30	123.7
一般用医薬品	27	28	1	4.6	52	54	2	3.8
医薬品事業合計	1,893	1,998	104	5.2	3,929	4,002	72	1.8

(注1) ジェネリック医薬品の他、田辺三菱製薬より移管した長期収載品を含んでおります。

(注2) 他社製品の製造受託品等

国内医療用医薬品の主要製品売上高予想について

本年1月に公表いたしました品質管理問題や東日本大震災の影響が不透明であることから、2011年度の国内主要製品売上高予想を開示することは適当でないと判断し、開示を控えさせていただきます。

設備投資 / 情報システム開発投資予想

(単位: 億円)

	2011年度 上期予想	2010年度 上期実績	増減額	増減率%	2011年度 通期予想	2010年度 通期実績	増減額	増減率%
設備投資額 / 発生ベース	44	39	5	14.2	77	101	24	24.0
システム投資額 / 発生ベース	3	3	0	5.1	10	8	1	22.1

2011年度の主な設備投資予定		2011年度の主なシステム投資予定	
生産関係設備	45億円	研究開発関係システム	4億円
・田辺三菱製薬工場	(15億円)	生産関係システム	2億円
研究開発関係設備	24億円	その他	4億円
その他	7億円		

減価償却費予想

(単位: 億円)

	2011年度 上期予想	2010年度 上期実績	増減額	増減率%	2011年度 通期予想	2010年度 通期実績	増減額	増減率%
有形固定資産	59	54	5	9.2	122	113	9	8.0
無形固定資産	5	5	0	5.1	10	10	0	4.9

4 四半期業績の推移

(億円未満切捨て)

損益計算書

(単位:億円)

	2009年度					2010年度				
	第1四半期 4~6月	第2四半期 7~9月	第3四半期 10~12月	第4四半期 1~3月	通期実績	第1四半期 4~6月	第2四半期 7~9月	第3四半期 10~12月	第4四半期 1~3月	通期実績
売上高	1,007 24.9%	974 24.1%	1,219 30.1%	845 20.9%	4,047 100.0%	1,087 26.6%	959 23.4%	1,148 28.0%	899 22.0%	4,095 100.0%
(国内)	(945) (25.0%)	(902) (23.9%)	(1,156) (30.6%)	(775) (20.5%)	(3,778) (100.0%)	(1,020) (26.6%)	(889) (23.2%)	(1,089) (28.4%)	(838) (21.8%)	(3,837) (100.0%)
(海外)	(62) (23.3%)	(72) (27.0%)	(63) (23.8%)	(69) (26.0%)	(268) (100.0%)	(67) (26.1%)	(69) (27.1%)	(59) (22.9%)	(61) (23.8%)	(257) (100.0%)
医薬品事業	981 24.8%	952 24.1%	1,196 30.2%	826 20.9%	3,957 100.0%	1,060 26.5%	938 23.4%	1,125 28.1%	878 22.0%	4,002 100.0%
(国内)	(927) (25.0%)	(884) (23.8%)	(1,137) (30.7%)	(760) (20.5%)	(3,710) (100.0%)	(1,002) (26.6%)	(872) (23.2%)	(1,071) (28.4%)	(822) (21.8%)	(3,768) (100.0%)
(海外)	(54) (22.0%)	(67) (27.5%)	(58) (23.7%)	(66) (26.8%)	(246) (100.0%)	(57) (24.8%)	(65) (28.1%)	(53) (22.9%)	(56) (24.2%)	(233) (100.0%)
その他	25 28.7%	22 24.6%	23 26.3%	18 20.4%	90 100.0%	27 29.6%	20 22.5%	23 25.3%	21 22.6%	93 100.0%
(国内)	(17) (25.9%)	(17) (25.7%)	(18) (26.9%)	(14) (21.5%)	(67) (100.0%)	(18) (26.4%)	(16) (24.0%)	(18) (26.2%)	(16) (23.5%)	(69) (100.0%)
(海外)	(8) (37.4%)	(4) (21.0%)	(5) (24.6%)	(3) (17.0%)	(22) (100.0%)	(9) (39.0%)	(4) (18.2%)	(5) (22.8%)	(4) (20.1%)	(23) (100.0%)
売上原価	359	350	457	310	1,478	413	365	445	321	1,545
売上原価率	35.6%	36.0%	37.5%	36.7%	36.5%	38.0%	38.1%	38.8%	35.7%	37.7%
売上総利益	648 25.2%	623 24.3%	762 29.7%	534 20.8%	2,569 100.0%	674 26.5%	594 23.3%	702 27.6%	578 22.7%	2,549 100.0%
販売費及び 一般管理費	422 21.6%	574 29.4%	437 22.4%	519 26.6%	1,954 100.0%	408 22.9%	458 25.7%	415 23.3%	501 28.1%	1,783 100.0%
研究開発費	161 19.4%	284 34.2%	164 19.9%	220 26.5%	830 100.0%	159 24.2%	165 25.1%	151 23.0%	181 27.7%	657 100.0%
研究開発費 以外	261 23.3%	290 25.9%	272 24.2%	299 26.7%	1,123 100.0%	249 22.1%	292 26.0%	264 23.5%	319 28.4%	1,126 100.0%
人件費	126 23.9%	135 25.5%	130 24.7%	137 25.9%	530 100.0%	123 23.5%	134 25.6%	124 23.7%	142 27.2%	525 100.0%
販売 促進費	22 19.2%	33 27.9%	29 24.5%	34 28.5%	119 100.0%	17 15.5%	35 31.5%	27 24.4%	32 28.6%	113 100.0%
のれん 償却額	25 25.0%	25 25.0%	25 25.0%	25 25.0%	101 100.0%	25 25.0%	25 25.0%	25 25.0%	25 25.0%	101 100.0%
その他	86 23.2%	96 25.9%	86 23.3%	102 27.6%	372 100.0%	82 21.4%	97 25.2%	87 22.6%	118 30.8%	386 100.0%
営業利益	225 36.7%	48 7.9%	325 52.9%	15 2.5%	614 100.0%	265 34.7%	135 17.7%	287 37.5%	77 10.1%	765 100.0%
経常利益	230 37.4%	48 7.9%	324 52.7%	12 2.0%	616 100.0%	267 34.9%	136 17.8%	289 37.7%	72 9.5%	766 100.0%
四半期(当期) 純利益	113 37.6%	21 7.2%	190 63.0%	23 7.8%	302 100.0%	146 38.9%	80 21.3%	165 43.9%	15 4.0%	377 100.0%

(注)各項目(売上原価を除く)の下段は進捗率を表示

主要製品売上高

(単位:億円)

	2009年度					2010年度				
	第1四半期 4～6月	第2四半期 7～9月	第3四半期 10～12月	第4四半期 1～3月	通期実績	第1四半期 4～6月	第2四半期 7～9月	第3四半期 10～12月	第4四半期 1～3月	通期実績
医療用医薬品	970	937	1,183	816	3,907	1,047	922	1,109	868	3,947
国内医療用医薬品	888	832	1,101	723	3,546	960	830	1,035	789	3,616
レミケード	103	123	132	112	471	143	149	173	137	604
ラジカット	71	67	83	57	279	79	62	80	63	287
セレジスト	44	39	51	33	168	48	41	51	39	180
アンブラーグ	50	44	57	31	183	45	37	47	34	164
ウルソ	43	39	48	32	162	41	35	42	33	153
タリオン	23	17	30	34	106	26	20	35	51	134
メインテート	28	25	33	22	110	32	27	34	28	123
デパス	30	27	33	23	115	30	26	31	25	114
タナトリル	31	26	33	19	111	27	22	27	19	96
ヘルベッサー	30	25	31	20	107	27	21	28	19	96
ヴェノグロブリンH	25	24	29	17	96	23	21	28	21	96
リブル	22	19	22	16	80	20	16	20	15	73
サアミオン	20	17	21	12	72	18	15	17	12	63
ニアート	13	14	18	10	57	14	13	16	11	55
オメプラゾン	15	13	16	10	55	13	11	13	10	48
ハバスタン	7	7	8	5	28	9	7	8	5	31
ワクチン(注2)	62	67	54	44	229	77	73	92	52	296
内、ミールビック	49	28	10	28	117	49	25	14	32	122
内、インフルエンザ (注2)	0	24	37	1	63	0	19	57	5	71
内、ジェービックV	3	6	3	6	20	17	19	16	15	69
田辺製薬販売取扱品 (注3)	17	17	28	21	85	28	25	47	39	140
海外医療用医薬品	52	60	55	59	228	56	56	50	49	213
ヘルベッサー	11	12	11	10	46	12	12	10	11	46
アルガトロバン (ハバスタン)	8	9	8	11	36	10	8	8	7	34
タナトリル	4	5	4	4	18	5	4	4	3	18
アンブラーグ	3	2	3	1	11	1	2	0	2	6
ワクチン	3	3	3	3	13	2	4	2	4	13
製造受託品(注4)	26	26	21	26	101	26	25	19	22	93
技術導入契約金等	3	17	3	6	31	2	10	4	6	24
一般用医薬品	11	15	12	10	49	12	15	15	10	54
医薬品事業合計	981	952	1,196	826	3,957	1,060	938	1,125	878	4,002

(注1) 各項目の下端は進捗率を表示

(注2) ワクチンおよびインフルエンザワクチンには、インフルエンザ(H1N1)2009ワクチンを含んでおりません。

(注3) ジェネリック医薬品の他、田辺三菱製薬より移管した長期収載品を含んでおります。

(注4) 他社製品の製造受託品等

5 新製品開発状況について(2011年5月10日現在)

1. 国内開発状況 新規化合物

治験コード/製品名 (一般名)	薬剤分類 (予定適応症など)	開発段階	起源	備考
CNT0148 (ゴリムマブ)	抗ヒトTNF モノクローナル抗体製剤 (関節リウマチ)	申請中 (2010年6月)	米:セントコア・オーソ・ バイオテック	共同開発 (ヤンセンファーマ)
FTY720 (フィンゴリモド塩酸塩)	スフィンゴシン1リン酸受容体調節剤 (多発性硬化症*)	申請中 (2010年12月)	自社	共同開発 (ノバルティスファーマ)
MP-424 (テラプレビル)	NS3-4Aプロテアーゼ阻害剤 (C型慢性肝炎)	申請中 (2011年1月)	米:ヴァーテックス	
MP-513 (テネグリブチン)	DPP4阻害剤 (2型糖尿病)	フェーズ3	自社	
BK-4SP	ワクチン (百日せき、ジフテリア、破傷風及び急性灰白髄炎の予防)	フェーズ3	一般財団法人 阪大微生物病研究会	共同開発 (一般財団法人 阪大微生物病研究会)
MP-214 (カリブラジン)	D3/D2受容体拮抗剤 (統合失調症)	フェーズ2	ハンガリー: ゲデオニリター	
TA-7284 (カナグリフロジン)	SGLT2阻害剤 (2型糖尿病)	フェーズ2	自社	
MP-435	C5a受容体拮抗剤 (関節リウマチ)	フェーズ2	自社	
MT-4666	7nACh受容体作動薬 (アルツハイマー病)	フェーズ1	米:エンヴィヴォ	

効能追加

治験コード/製品名 (一般名)	薬剤分類 (予定適応症など)	開発段階	起源	備考
献血ヴェノグロブリンH (ポリエチレングリコール 処理人免疫グロブリン)	ヒト免疫グロブリンG (免疫グロブリンG2欠乏症)	申請中 (1997年12月)	自社	
	(全身性強皮症)	フェーズ3		
	(重症筋無力症*)	申請中 (2010年12月)		
モディオダール (モダフィニル)	精神神経用剤 (閉塞性睡眠時無呼吸症候群)	申請中 (2010年5月)	米:セファロン	共同開発 (アルフレッサファーマ)
MCI-9038 (アルガトロバン)	抗トロンピン剤 (ヘパリン起因性血小板減少症(HIT)における経皮的冠動脈インター ベンション時、ならびに血液透析時の血液凝固防止)	申請中 (2010年8月)	自社	
メインテート (ピソプロロール)	選択的 β 1遮断剤 (慢性心不全)	申請中 (2010年11月)	独:メルク	公知申請
アザニン (アザチオプリン)	免疫抑制剤 (全身性血管炎、全身性エリテマトーデス(SLE)、多発性筋炎、皮膚 筋炎、強皮症、混合性結合組織病、および難治性リウマチ性疾患)	申請中 (2010年11月)	英:グラクソ・スミスクラ イン	公知申請
抗D人免疫グロブリン	抗D人免疫グロブリン (分娩後、妊娠中ないし分娩における処置、腹部打撲後等、および妊 娠28週間後のD(Rho)因子感作の抑制)	申請中 (2010年11月)	自社	公知申請
レミケード (インフリキシマブ(遺伝 子組換え))	抗ヒトTNF モノクローナル抗体製剤 (クローン病:用法・用量の変更)	申請中 (2010年12月)	米:セントコア・オーソ・ バイオテック	
ラジカット (エダラボン)	フリーラジカル消去剤 (筋萎縮性側索硬化症*)	フェーズ3	自社	
コレバイン (コレスチミド(JAN))	胆汁酸分泌制御 (2型糖尿病)	フェーズ2	自社	
	リン吸収阻害作用 (高リン血症)	フェーズ1		

*希少疾病用医薬品指定

2. 海外開発状況 新規化合物

治験コード/製品名 (一般名)	薬剤分類 (予定適応症など)	地域	開発段階	起源	備考
リバロ (ピタバスタチンカルシウム)	HMG-CoA還元酵素阻害剤 (高コレステロール血症、家族性高コレステロール血症)	台湾	申請中 (2010年4月)	興和	台田薬品による申請
		インドネシア	申請中 (2010年6月)		タナベ インドネシアによる申請
MCI-196 (コレステラン (INN))	リン吸収阻害剤 (高リン血症)	米国、欧州	フェーズ 3	自社	
MP-146	尿毒症毒素吸着剤 (慢性腎臓病)	米国、欧州	フェーズ 3	クレハ	
MT-2832 (ルナカルシポール)	ビタミンD誘導体 (二次性副甲状腺機能亢進症)	米国・カナダ	フェーズ 2	カナダ: サイトクロマ	
MCI-186 (エダラボン)	フリーラジカル消去剤 (脳梗塞急性期)	欧州	フェーズ 2	自社	
MP-513 (テネリグリブチン)	DPP4阻害剤 (2型糖尿病)	欧州	フェーズ 2	自社	
		米国	フェーズ 1		
GB-1057 (人血清アルブミン[遺伝子組換え])	遺伝子組換えヒト血清アルブミン (安定化剤)	米国	フェーズ 1	自社	
TA-8995	CETP阻害剤 (脂質異常症)	欧州	フェーズ 1	自社	
MP-124	PARP阻害剤 (脳梗塞急性期)	米国・カナダ	フェーズ 1	自社	
MP-136	PPAR 作動剤 (脂質異常症)	欧州	フェーズ 1	自社	
MT-3995	選択的ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬 (高血圧)	欧州	フェーズ 1	自社	
MP-157	アンジオテンシン タイプ2受容体作動薬 (高血圧)	欧州	フェーズ 1	自社	
MT-1303	スフィンゴシン1リン酸受容体調節剤 (多発性硬化症)	欧州	フェーズ 1	自社	

3. 導出品の開発状況

治験コード/製品名 (一般名)	薬剤分類 (予定適応症など)	地域	開発段階	導出先
TA-1790 (アパナフィル)	PDE5阻害剤 (勃起不全)	韓国	申請 (2011年1月)	韓: JWファーマ (旧チヨンウェイ)
		米国	フェーズ 3	米: ヴィーヴァス
TA-7284 (カナグリフロジン)	SGLT2阻害剤 (2型糖尿病)	米国、欧州	フェーズ 3	米: ジョンソン・エンド・ジョンソン
	(肥満)	米国、欧州	フェーズ 2	
T-0047 (フィラテグラスト)	細胞接着阻害剤[4 7/ 4 1阻害剤] (多発性硬化症)	欧州	フェーズ 2	英: グラクソ・スミスクライン
MKC-242	セロトニン1A受容体作動剤 (不眠症)	米国	フェーズ 2	米: メディシバ
MKC-231	神経新生促進剤 (うつ病 / 不安障害)	米国	フェーズ 2	米: ブレインセルズ
Y-39983	ROCK阻害剤 (緑内障)	日本	フェーズ 2	日: 千寿製薬
MT-210	セロトニン2A / シグマ2 受容体拮抗剤 (統合失調症)	欧州	フェーズ 2	仏: キレナイック
MKC-733	セロトニン3作動剤 (胃食道逆流症)	米国	フェーズ 2	米: エデューサ
sTU-199 (テナトプラゾール)	プロトンポンプ阻害剤 (胃食道逆流症)	欧州	フェーズ 1	仏: ネグマ(シテム)
TT-138	3受容体作動剤 (頻尿 / 尿失禁)	米国	フェーズ 1	米: メディシバ
TA-7906	PDE4阻害薬 (アトピー性皮膚炎)	日本	フェーズ 1	日: マルホ

4. 2010年度第3四半期決算発表時点(2011年1月28日)からの変更点

自社開発品

治験コード/製品名 (一般名)	薬剤分類 (予定適応症など)	前回発表時点	2011年5月10日現在
MCI-9038 (アルガトロバン)	抗トロンピン剤 (ヘパリン起因性血小板減少症[HIT])	フランス、スペイン申請中 (2010年11月)	フランス・スペイン 承認同意(2011年2月)
MP-157	アンジオテンシン タイプ2受容体作動薬 (高血圧)	記載なし	欧州 フェーズ1
MT-1303	スフィンゴシン1リン酸受容体調節剤 (多発性硬化症)	記載なし	欧州 フェーズ1

導出品

治験コード/製品名 (一般名)	薬剤分類 (予定適応症など)	前回発表時点	2011年5月10日現在
FTY720 (フィンゴリモド塩酸塩)	スフィンゴシン1リン酸受容体調節剤 (多発性硬化症)	欧州申請中 (2009年12月)	EU、カナダ承認 (2011年3月)
TA-1790 (アバナフィル)	PDE5阻害剤 (勃起不全)	韓国 フェーズ3	韓国申請 (2011年1月)
MKC-733	セロトニン3作動剤 (胃食道逆流症)	記載なし	米国 フェーズ2
TA-2005 (カルモテロール)	長時間作用性 2受容体刺激剤 (喘息、COPD)	欧州 フェーズ2	ライセンス契約終了 (2011年1月)

5. 新製品開発状況補足資料(2011年5月10日現在)

国内 新規化合物

治験コード/製品名 (一般名)	補足説明
CNT0148 (ゴリムマブ)	抗TNF モノクローナル抗体。セントコア・オーソ・バイオテック(米)より導入。皮下注射剤の関節リウマチ治療薬として、ヤンセンファーマと共同で開発実施、2010年6月に申請。
FTY720 (フィンゴリモド塩酸塩)	〔2007年9月、希少疾病用医薬品指定〕スフィンゴシン1リン酸受容体調節剤。ノバルティスファーマと共同で開発し、2010年12月、多発性硬化症を対象に申請。
MP-424 (テラブレビル)	C型肝炎ウイルスのプロテアーゼNS3/4A阻害による経口投与可能なC型慢性肝疾患治療剤。ヴァーテックス(米)より導入。2011年1月に申請。
MP-513 (テネリグリブチン)	DPP4酵素阻害により、食事摂取後のインスリン分泌を促進し、空腹時のインスリン分泌を促進しない、2型糖尿病治療剤。フェーズ 3。
BK-4SP	百日せき菌の抗原、ジフテリアトキソイド、破傷風トキソイド、および不活化ポリオウイルスの混合ワクチン。一般財団法人阪大微生物病研究会と共同開発。フェーズ3。
MP-214 (カリブラジン)	ドパミンD3/D2受容体拮抗作用を有する。ゲデオシリヒター(ハンガリー)より導入。統合失調症を対象にフェーズ 2。
TA-7284 (カナグリフロジン)	SGLT2選択的阻害剤。腎臓における糖再吸収を阻害して血糖値を低下させる。2型糖尿病でフェーズ 2。
MP-435	補体成分C5a受容体拮抗作用を有する経口の免疫調節剤。関節リウマチを対象にフェーズ 2。
MT-4666	7ニコチン性アセチルコリン受容体(nAChR)アゴニスト。エンヴィヴォ(米)より導入。アルツハイマー病を対象にフェーズ1。

② 国内 効能追加

治験コード/製品名 (一般名)	補足説明
献血ヴェノグロブリンH (ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン)	(免疫グロブリンG2欠乏症)申請中。 (びまん型全身性強皮症)国内の臨床研究によって疾患の主要因である皮膚症状の改善に対してIVIGの有効性が見出され、海外においても有効性が報告されている。フェーズ 3。 (重症筋無力症〔2009年9月、希少疾病用医薬品指定〕)国内において血液浄化療法群を対照として2010年12月に申請。
モディオダール (モダフィニル)	(閉塞性睡眠時無呼吸症候群)2008年5月に共同開発会社のアルフレッサファーマが申請したが、当局との相談の結果、追加データ取得のため、追加臨床試験フェーズ3を実施し2010年5月に追加データを提出。
MCI-9038 (アルガトロバン)	(ヘパリン起因性血小板減少症(HIT))における経皮的冠動脈インターベンション時、ならびに血液透析時の血液凝固防止)2010年8月に申請した。
レミケード (インフリキシマブ〔遺伝子組換え〕)	(クローン病)レミケードの増量効果を確認するため、維持療法中に効果不十分となった患者を対象に開発を実施し、2010年12月に申請。
メインテート* (ピソプロロール)	(慢性心不全)欧州で実施された大規模臨床試験(CIBIS II試験)でNYHA III～IV度の慢性心不全患者の延命効果を高めることが明らかにされた。国内では慢性心不全の効能追加のための臨床試験を実施中であるが、2010年11月に公知申請。
アザニン* (アザチオプリン)	(免疫抑制剤)全身性血管炎、全身性エリテマトーデス(SLE)、多発性筋炎、皮膚筋炎、強皮症、混合性結合組織病、および難治性リウマチ性疾患について2010年11月に公知申請。
抗D人免疫グロブリン*	(抗D人免疫グロブリン)分娩後、妊娠中ないし分娩における処置、腹部打撲後等、及び妊娠28週前後のD(Rho)因子感作の抑制について2010年11月、公知申請。
ラジカット (エダラボン)	(筋萎縮性側索硬化症〔2005年6月、希少疾病用医薬品指定〕)フェーズ 3。
コレバイン (コレステミド(JAN))	(2型糖尿病)フェーズ 2。 (高リン血症)フェーズ 1。

*「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議」への対応

海外 新規化合物

治験コード/製品名 (一般名)	補足説明
リバロ (ピタバスタチンカルシウム)	2009年8月に興和から導入したHMG-CoA還元酵素阻害剤。高コレステロール血症治療薬として、台湾およびインドネシアで海外子会社が申請中。日本では製品名リバロで興和が販売中。
MCI-196 (コレステラン(INN))	陰イオン交換樹脂。欧米で腎透析患者における高リン血症を対象にフェーズ 3。日本では、高コレステロール血症治療薬として製品名コレバインで販売中。
MP-146	2006年11月にクレハから導入した経口の球状吸着炭。慢性腎臓病患者を対象に欧米においてフェーズ 3。日本では製品名クレメジンで1991年から三共(現、第一三共)が販売していたが、2011年4月より当社が販売を継承。
MT-2832 (ルナカルシポール)	2008年7月にサイトクロマ(カナダ)から導入。ビタミンDシグナル伝達を強力に活性化すると同時に、ビタミンDの不活性化をつかさどる酵素CYP24に分解されにくい新しいタイプのビタミンD誘導体。カナダにおいて慢性腎不全患者を対象に二次性副甲状腺機能亢進症でフェーズ 2。
MCI-186 (エダラボン)	世界初の脳保護剤(フリーラジカル消去剤)。脳梗塞急性期を対象に欧州でフェーズ 2。日本では製品名ラジカットで販売中。
MP-513 (テネリグリプチン)	DPP4酵素阻害により、食事摂取後のインスリン分泌を促進し、空腹時のインスリン分泌を促進しない、2型糖尿病治療剤。米国でフェーズ 1、欧州でフェーズ 2。
GB-1057 (人血清アルブミン(遺伝子組換え))	遺伝子組換えヒト血清アルブミン。米国において安定化剤でフェーズ 1。
TA-8995	CETP阻害により、HDL-Cを増加させLDL-Cを低下させる脂質異常症治療剤。欧州でフェーズ 1。
MP-124	PARP酵素阻害により神経細胞の傷害保護作用を示す。米国・カナダで脳梗塞急性期を対象にフェーズ 1。
MP-136	PPAR 作動剤。欧州において脂質異常症でフェーズ 1。
MT-3995	選択的ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬。欧州において、高血圧でフェーズ 1。
MP-157	アンジオテンシン タイプ2受容体作動薬。欧州でフェーズ 1。
MT-1303	スフィンゴシン1リン酸受容体調節剤。欧州でフェーズ 1。

導出品

治験コード/製品名 (一般名)	補足説明
TA-1790 (アバナフィル)	即効性で、副作用の少ない勃起障害治療剤として創製。米国でヴィーヴァスによりフェーズ 3。韓国でJWファーマ(旧チョンウェイ)により2011年1月に申請された。
TA-7284 (カナグリフロジン)	SGLT2選択的阻害薬。腎臓における糖再吸収を阻害して血糖値を低下させる。ジョンソン・エンド・ジョンソンにより欧州・米国で糖尿病を対象にフェーズ 3。肥満を対象にフェーズ 2終了。
T-0047 (フィラテグラスト)	白血球が炎症部位に浸潤する過程を抑える細胞接着阻害剤。T-0047の臨床試験はグラクソ・スミスクラインによって欧州ほかでフェーズ 2。
MKC-242	セロトニン1A受容体の作動薬で、依存性が生じる可能性が低く即効性が期待される不安症やうつ病などの精神疾患治療剤。米国メディシナバで不眠症を対象にフェーズ 2。
MKC-231	神経新生促進剤。米国でブレインセルズによりフェーズ 2。
Y-39983	血管平滑筋を弛緩させるROCK(Rho-キナーゼ)阻害作用をもつ薬剤。国内で千寿製薬によりフェーズ 2。
MT-210	セロトニン2A / シグマ2 受容体拮抗剤。キレナイック(仏)によりフェーズ 2。
MKC-733	セロトニン3受容体作動作用を持つ消化管運動調節薬で、米国でエドューサが夜間性胃食道逆流症を対象としたフェーズ2を実施中。
sTU-199 (テナトブラゾール)	国内で開発していたTU-199の光学異性体で、ネグマ(仏)へ導出。欧米で実施されたフェーズ1試験のPK/PDにおいて、長い血中濃度半減期より1日1回投与で夜間における優れた胃酸コントロールが確認され、早期の症状改善や治癒が期待されている。子会社のシテムが胃食道逆流症を対象に、欧州でフェーズ 1。
TT-138	3受容体作動作用を持つ頻尿・尿失禁治療剤。米国でメディシナバによりフェーズ 1。
TA-7906	PDE4阻害薬。アトピー性皮膚炎を予定適応症に、国内でマルホによりフェーズ1で開発中。

6 その他

1. 関係会社

関係会社数

	2010年度末	2009年度末	増減数	特記事項
連結子会社数	28	27	1	増加) 広東田辺医薬
非連結子会社数	3	6	3	減少) 広東田辺医薬、興栄商事、東京田辺商事
関連会社数	3	4	1	減少) サンケミカル
合計	34	37	3	

連結子会社一覧

(2011年3月31日現在)

	会社名	資本金(百万円)	議決権所有割合 (内、間接所有分)	決算期	事業内容
1	(株)ベネシス	3,000	100.0 ()	3月末	医薬品の製造・販売
2	田辺三菱製薬工場(株)	1,130	100.0 ()	3月末	医薬品の製造・販売
3	ミツビシ タナベ ファーマ コリア	KRW 2,100,000,000	100.0 ()	12月末	医薬品の製造・販売
4	三菱製薬(広州)有限公司	US\$12,000,000	100.0 ()	12月末	医薬品の製造・販売
5	天津田辺製薬有限公司	US\$12,000,000	66.7 ()	12月末	医薬品の製造・販売
6	吉富薬品(株)	385	100.0 ()	3月末	医薬品の学術情報伝達
7	MPロジスティクス(株)	95	65.0 ()	3月末	物流・倉庫業
8	(株)パイファ	7,500	51.0 ()	3月末	医薬品の製造・販売
9	田辺製薬吉城工場(株)	400	100.0 ()	3月末	医薬品の製造・販売
10	田辺製薬販売(株)	169	92.9 (7.9)	3月末	ジェネリック医薬品等の販売
11	(株)田辺アールアンドディー・サービス	44	100.0 ()	3月末	医薬品の研究開発支援サービス
12	田辺総合サービス(株)	90	100.0 ()	3月末	不動産の管理等
13	MPヘルスケアベンチャー マネジメント	US\$100	65.0 ()	12月末	バイオベンチャーへの投資事業
14	ミツビシ タナベ ファーマ ホールディングス アメリカ	US\$166	100.0 ()	12月末	米国グループ会社の経営管理
15	ミツビシ タナベ ファーマ ディベロップメント アメリカ	US\$100	100.0 (100.0)	12月末	医薬品の研究開発
16	タナベ リサーチ ラボラトリーズ U.S.A.	US\$3,000,000	100.0 (100.0)	12月末	医薬品の研究開発
17	タナベ U.S.A.	US\$1,400,000	100.0 (100.0)	12月末	化成品等の販売
18	ミツビシ タナベ ファーマ アメリカ	US\$100	100.0 (100.0)	12月末	医薬品の販売
19	三菱製薬研発(北京)有限公司	US\$1,000,000	100.0 ()	12月末	医薬品の研究開発
20	広東田辺医薬有限公司	7,000千元	100.0 ()	12月末	医薬品の販売
21	台湾田辺製薬股份有限公司	NT\$90,000,000	65.0 ()	12月末	医薬品の製造・販売
22	台田薬品股份有限公司	NT\$20,000,000	65.0 ()	12月末	医薬品の販売
23	タナベ インドネシア	US\$2,500,000	99.6 ()	12月末	医薬品の製造・販売
24	ミツビシ ファーマ ヨーロッパ	£4,632,000	100.0 ()	12月末	医薬品の研究開発
25	ミツビシ ファーマ ドイツ	EUR 25,000	100.0 (100.0)	12月末	医薬品の販売
26	タナベ ヨーロッパ	EUR 260,330	100.0 ()	12月末	化成品等の販売

(注) 上記以外に清算手続中の連結子会社が2社あります。

持分法適用非連結子会社一覧

(2011年3月31日現在)

	会社名	資本金(百万円)	議決権所有割合 (内、間接所有分)	決算期	事業内容
1	長生堂製薬(株)	340	52.5 ()	12月末	医薬品の製造・販売
2	ホシエヌ製薬(株)	75	52.5 (52.5)	3月末	医薬品の製造・販売

持分法適用関連会社一覧

(2011年3月31日現在)

	会社名	資本金(百万円)	議決権所有割合 (内、間接所有分)	決算期	事業内容
1	(株)エービーアイ コーポレーション	4,000	47.7 ()	3月末	医薬品原体等の製造・販売
2	サンテラボ・タナベ シミイ	EUR 1,600,000	50.0 ()	12月末	医薬品の製造・販売

2. 株式の状況

発行済株式数

	2011年3月末	2010年3月末
期末発行済株式総数	561,417,916	561,417,916
期末自己株式数	353,152	256,440
期末発行済株式数	561,064,764	561,161,476
期中平均自己株式数	307,141	253,814
期中平均株式数	561,110,775	561,164,102

大株主の状況

順位	株主名	2011年3月末		2010年3月末		
		持株数 千株	持株比率	順位	持株数 千株	持株比率
1	三菱ケミカルホールディングス	316,320	56.34%	1	316,320	56.34%
2	日本マスタートラスト信託銀行	25,490	4.54%	2	32,043	5.71%
3	日本トラスティ・サービス信託銀行	17,169	3.06%	3	25,237	4.50%
4	日本生命保険	15,875	2.83%	4	15,875	2.83%
5	ニプロ	7,642	1.36%	5	8,030	1.43%
6	三菱東京UFJ銀行	7,254	1.29%	6	7,254	1.29%
7	ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラー アカウント	7,116	1.27%	-	213	0.04%
8	ジェービー モルガン チェース バンク 385147	7,100	1.26%	7	6,850	1.22%
9	東京海上日動火災保険	5,218	0.93%	8	5,218	0.93%
10	パーシング ディヴィジョン オブ ドナルドソンラフキン アンド ジェンレット エスイーシー コーポレイション	4,355	0.78%	13	3,021	0.54%

所有者別株式数分布状況

	2011年3月末			2010年3月末		
	株主数 名	株式数 千株	構成比	株主数 名	株式数 千株	構成比
金融機関	62	90,522	16.13%	71	110,681	19.75%
外国法人等	391	100,839	17.97%	402	79,225	14.13%
個人・その他(注)	11,460	26,104	4.65%	9,724	28,289	5.05%
その他の法人	284	342,679	61.05%	220	341,060	60.85%
金融商品取引業者	38	1,148	0.20%	31	1,239	0.22%
合計	12,235	561,293	100.00%	10,448	560,494	100.00%
単元未満株式の状況	-	124	-	-	923	-

* 1単元の株式数は100株

(注) 個人・その他には、自己株式(2011年3月末353千株、2010年3月末256千株)を含んでおります。

配当金 / 株価推移

	2007年度(注1)	2008年度(注2)	2009年度(注2)	2010年度(注2)	2011年度 予想(注2)
1株当たり年間配当金(円)	26	28	28	28	28
配当性向(%)	44.0	43.0	39.0	32.9	34.5
期末株価(円)	1,161	971	1,320	1,350	-
株式時価総額(億円)	6,518	5,451	7,410	7,579	-

(注1) 配当金は、田辺製薬の中間配当金(13円)と田辺三菱製薬の期末配当金(13円)を用いております。また、配当性向は田辺三菱製薬の下期の当期純利益からのれん償却額を除いた利益と期末配当金から算出しております。

(注2) 配当性向は、当期純利益からのれん償却額を除いた利益と年間配当金から算出しております。

3. 従業員数

(単位:人)

	2007年度末	2008年度末	2009年度末	2010年度末	2011年度末 予想
連結	10,361	10,030	9,266	9,198	9,300
単体	6,266	5,715	5,186	4,957	4,840

主要医療用医薬品の解説

レミケード	2002年5月発売	薬効	抗ヒトTNF モノクローナル抗体製剤(関節リウマチ、活動期クローン病、パーチェット病による難治性網膜ぶどう膜炎、乾癬、強直性脊椎炎、中等症から重症の潰瘍性大腸炎の治療剤)
<p>炎症性サイトカインであるTNF をターゲットとした抗TNF 抗体で、早く強力な効果と、1回の投与で2カ月間効果が持続するという点が特長である。2007年1月にパーチェット病による難治性網膜ぶどう膜炎の効能が追加され、同年11月にクローン病に対する維持療法が承認された。2009年7月に関節リウマチにおいて投与量の増量や投与間隔の短縮ならびに関節破壊の抑止効果が承認された。さらに、乾癬の効能・効果追加の承認が2010年1月、2010年4月には強直性脊椎炎、さらに2010年6月には潰瘍性大腸炎の効能・効果が承認された。</p> <p>オリジン: (米) セントコア・オーソ・バイオテック</p>			
ラジカット	2001年6月発売	薬効	フリーラジカルスカベンジャー(脳保護剤)
<p>我が国で開発された世界初の脳保護剤(フリーラジカルスカベンジャー)であり、脳梗塞急性期の患者における神経症候、日常生活動作障害、機能障害(退院時の後遺症の程度)を改善する。脳梗塞の3つの主要病型(ラクナ梗塞、アテローム血栓性脳梗塞、心原性脳塞栓症)いずれにも適応がある。発症後24時間以内に投与を開始し、投与期間は14日以内。2010年1月には点滴静注バッグが承認され、5月に発売した。</p>			
セレジスト	2000年9月発売	薬効	脊髄小脳変性症治療剤
<p>脊髄小脳変性症による運動失調に対し、甲状腺刺激ホルモン放出ホルモン(TRH)が有効であることは既に確認されていたが、これまでは注射剤のみであった。自社技術によりTRHを誘導体化し、経口投与を世界で初めて可能にした。2009年6月に口腔内崩壊錠の剤形追加が承認され、10月に発売した。</p>			
アンブラーグ	1993年10月発売	薬効	5-HT2ブロッカー(抗血小板剤)
<p>閉塞性動脈硬化症(ASO)など慢性動脈閉塞症に対する治療薬(経口抗血小板薬)である。セロトニンにより増強される血小板凝集、血管収縮、血管平滑筋細胞増殖を抑制することにより慢性動脈閉塞症に伴う潰瘍、疼痛、冷感等の虚血性諸症状を改善する。特に側副血行路の血流を改善する。2007年8月に高齢者にも服用しやすい小型化錠が承認された。</p>			
ウルソ	1962年7月発売	薬効	肝・胆・消化機能改善剤
<p>本剤の主成分ウルソデオキシコール酸(UDCA)は、古くから消化器症状の改善に用いられてきた熊胆(クマノイ)が薬効の起源であり、ヒト生体内に存在する胆汁酸の一つである。本剤は肝細胞を保護する作用を持ち、慢性肝疾患・C型慢性肝疾患における肝機能の改善、胆石の溶解等の効能を持つ。</p>			
タリオン	2000年10月発売	薬効	アレルギー性疾患治療剤
<p>抗ヒスタミンH1作用の発現が早くみられ、アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患に伴うそう痒に即効性を発揮する。一方で、眠気の発現頻度が低い。2007年3月に口腔内崩壊錠の剤形追加が承認され、7月に発売した。</p> <p>オリジン: 宇部興産</p>			
メインテート	1990年11月発売	薬効	選択的 1遮断剤(高血圧症・狭心症・不整脈治療剤)
<p>世界85カ国以上で使用されている代表的な 1遮断剤。極めて高い 1選択性と良好な薬物動態を示し、高い有効性と安全性とともにエビデンスに基づいた心保護効果を有する。</p> <p>オリジン: (独)メルク KGaA</p>			
デパス	1984年3月発売	薬効	精神安定剤
<p>国内で最も汎用される抗不安薬。強力な抗不安作用に筋緊張緩和作用、鎮静・催眠作用を併せ持つため、心身症、神経症だけでなく、腰痛症、頸椎症、筋収縮性頭痛、うつ病ならびに睡眠障害にも効果が認められている。</p>			
タナトリル	1993年12月発売	薬効	アンジオテンシン変換選択性阻害剤(高血圧症治療剤)
<p>確実な血圧降下作用および高い臓器保護作用を有しながら、この種の薬剤に一般的な副作用である空咳の発生頻度が少ない。2002年には日本で初めて1型糖尿病に伴う糖尿病性腎症への効能追加が承認された。</p>			
ヘルベッサー	1974年2月発売	薬効	カルシウム拮抗剤(狭心症・高血圧症治療剤)
<p>世界110カ国以上で使用されている代表的なカルシウム拮抗剤。血圧降下作用に加え、心拍数を抑えて心臓の負担を軽減し、冠血管拡張作用により酸素供給を増加させる。狭心症や高血圧症において心臓をやさしく保護する効果がある。</p>			

ヴェノグロブリンH	1992年1月発売	薬効	血漿分画製剤(液状・静注用免疫グロブリン製剤)
国内の献血血液を原料として製造された人免疫グロブリン製剤。免疫グロブリンの持つ4つの作用(オプソニン作用、毒素やウイルスの中和作用、免疫溶菌作用、抗体依存性細胞傷害)により、抗菌薬と併用することで重症感染症に対する効果を発揮する。2010年10月、「多発性筋炎・皮膚筋炎における筋力低下の改善(ステロイド剤が効果不十分な場合に限る)」の効能追加に係る承認を取得。多発性筋炎・皮膚筋炎の治療における新たな選択肢として、患者さんのQOL向上に貢献できるものと期待している。			
リプル	1988年11月発売	薬効	プロスタグランジンE1製剤
世界初の静注用プロスタグランジンE1のDDS(ドラッグ・デリバリー・システム)製剤。血管に直接作用し拡張させることにより慢性動脈閉塞症、糖尿病における皮膚潰瘍等の末梢循環障害を改善する。DDS化によりPGE1の治療上の有用性を最大に引き出し、投与時のデメリットを最小化することに成功した。			
サアミオン	1988年6月発売	薬効	脳循環・代謝改善剤
脳循環・代謝改善作用を有する薬剤。脳梗塞後遺症の治療薬として処方されている。1998年に厚生省によって行われた再評価において、有用性が再確認されている。また、「脳卒中治療ガイドライン2009」において、脳梗塞慢性期の治療薬として推奨されている。 オリジン:(米)ファイザー			
ノイアート	1987年6月発売	薬効	血漿分画製剤(血液凝固阻止剤)
国内の献血血液を原料とした人アンチトロンピン製剤。人アンチトロンピンを高純度に含有するDIC治療剤である。トロンピンをはじめ幅広くセリンプロテアーゼ活性を阻害することにより強力な抗凝固作用を発揮する。			
オメプラゾン	1991年4月発売	薬効	プロトンポンプインヒビター(消化性潰瘍、胃食道逆流症治療剤)
胃酸分泌の最終過程であるプロトンポンプの働きを阻害することにより、強力かつ持続的に胃酸分泌を抑制する。世界初のプロトンポンプインヒビターである。消化性潰瘍、十二指腸潰瘍、胃食道逆流症に優れた効果をもつ。さらに、2007年5月に非びらん性胃食道逆流症が、8月にヘリコバクターピロリの二次除菌療法に係る用法・用量追加が承認された。 オリジン:(英)アストラゼネカ			
ノバスタン	1990年6月発売	薬効	選択的抗トロンピン剤
化学合成された選択的抗トロンピン剤。1990年6月に上市され、「慢性動脈閉塞症における四肢潰瘍、安静時疼痛ならびに冷感の改善」、「脳血栓症急性期に伴う神経症候、日常生活動作の改善」、「先天性アンチトロンピン 欠乏患者における血液体外循環時の灌流血液の凝固防止」に使用されている。2008年7月に「ヘパリン起因性血小板減少症(HIT)型における血栓症の発症抑制」についても効能を取得した。海外では、2000年に米国FDAにより「ヘパリン起因性血小板減少症(HIT)における血栓症の予防及び治療」の効能・効果が承認され、以来、海外9カ国において同効能・効果で承認されている。			
ミールビック	2005年12月発売	薬効	麻しんおよび風しんの予防
麻しんと風しんの予防接種が同時に行え、接種者の負担が軽減できる乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン。麻しんおよび風しんの予防接種率の向上が期待される。 オリジン・製造販売元:一般財団法人阪大微生物病研究会			
ジェービックV	2009年6月発売	薬効	日本脳炎の予防
製造過程におけるウイルスを増殖させる宿主として、Vero細胞を使用した、乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン。定期接種1期、2期ともに乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンが使用可能になったことから、接種人数の増加が期待される。 オリジン・製造販売元:一般財団法人阪大微生物病研究会			
クレメジン	2011年4月発売	薬効	慢性腎不全用剤
高純度の多孔質炭素からなる球形微粒状の経口吸着薬。慢性腎不全時の尿毒症毒素の除去により疾患の進行抑制や病態の改善を図る。1991年12月に発売後、2011年4月、第一三共からの販売移管により、当社が販売を開始した。 オリジン・製造販売元:クレハ			

ニュースリリース

2010年10月以降の主なニュースリリースは、下記の通りです。詳細は、ホームページ(<http://www.mt-pharma.co.jp/release/index.php>)をご覧ください。

発表日	内容
2010年 10月12日	注射用ニューキノロン系抗菌製剤「パズクロス点滴静注液1000mg」10月13日新発売のお知らせ
10月27日	液状・静注用免疫グロブリン製剤「献血ヴェノグロブリンH5%静注」多発性筋炎・皮膚筋炎の効能・効果追加承認の取得に関するお知らせ
11月25日	ジェネリック医薬品の新発売に関するお知らせ
12月14日	アナフォア社とのアトリーマ技術(機能性タンパク質)に関する共同研究開始のお知らせ
12月20日	多発性硬化症治療薬「FTY720」日本国内における製造販売承認申請について
12月21日	ペボタスチンベシル酸塩(眼科領域適応)の韓国導出に関するお知らせ
2011年 1月11日	慢性腎不全用剤「クレメジン」国内における販売移管のお知らせ
1月26日	医療用医薬品3製品6品目の一部ロットに係る自主回収について
1月28日	C型慢性肝炎治療薬「MP-424」日本国内における製造販売承認申請について
1月28日	呼吸器疾患治療薬APTA-2217(一般名:ロフルミラスト)に関するナイコメッド社との共同開発契約終了のお知らせ
2月22日	セラペプターゼ錠10mg「タナベ」(旧販売名:セフラターゼ錠10)の製造販売中止並びに自主回収について
3月1日	九州支店の移転に関するお知らせ
3月7日	田辺製薬販売への長期収載医薬品5製品の販売移管に関するお知らせ
3月11日	田辺三菱製薬 - 京都大学の協働によるオープンイノベーション創薬拠点「慢性腎臓病の革新的治療法を指向する基礎・臨床研究プロジェクト」のお知らせ
3月14日	東北地方太平洋沖地震に対する義援金について
3月15日	東北地方太平洋沖地震の影響に関するお知らせ
3月28日	ノバルティス社による欧州連合における「FTY720」の承認取得について
3月30日	東北地方太平洋沖地震の影響に関するお知らせ(第二報)
4月11日	東日本大震災の影響に関するお知らせ(第三報)
4月27日	品質管理問題に係る総括報告書について
4月27日	役員報酬の一部返上に関するお知らせ
4月27日	組織変更および人事異動に関するお知らせ
4月27日	田辺三菱製薬工場 人事異動に関するお知らせ